

会社ハミングバードの取締役として、その専門を生かし活動をされている方であります。本年の3月1日付で、市長公室・報道監付に部長級の「副理事」として採用いたします。

任期は、3年であります。

担当していただく職務でありますが、まず1つ目としては、本市の戦略的な広報マスタープランの策定と、その全庁的な周知徹底を図っていただきます。2つ目としまして、本市のパブリシティの向上に関する技術的な指導・助言を全庁的にしていただきまして、レベルアップに努めていただきます。3つ目として、本市のシティセールスにつながる情報発信に関する指導、助言を全庁的にしていただき、情報公開日本一にふさわしい広報を確立してまいりたいと考えております。

主な経歴につきましては、資料に掲載しておりますが、業務実績としては、国や政府機関等の広報・PR関連の実績が豊富なこと、そしてさいたま市においても多くの業務に参画をしており、高い評価を得ております。

今回、採用の決め手となりましたのは、長谷川氏のこれまでの豊富な実績と高度な専門的な能力であります。

先日、私が直接面接をする機会をつくりまして、その場で約30分ほどプレゼンテーションをしていただきました。長谷川氏が持つ高度な専門性と業務に向かう情熱に大変感銘を受け、この人であれば、本市の広報の向上に一翼を担っていただけると判断をいたしました。

あわせて他の機関の見解も確認する必要があると考えまして、広報・PRに関し信頼性の高い機関でもあります「社団法人日本PR協会」に照会をいたしましたところ、当協会の業務についても貢献が非常に大きかったというふうに回答を得、採用の意を強くしたところでございます。

担当していただくいずれの職務も、長谷川氏が持つ高い専門性を生かし、これまで培われました実践力を遺憾なく発揮をされ、本市が情報公開日本一になることを目指して、広報活動がレベルアップするよう期待をしているところでございます。

特に、記者の皆様方には身近な職務を担当することになりますので、また接する機会も多くなるとお考えいただけますので、どうぞお引き立てをいただきますようお願いをしたいと思います。

議題につきましては、以上でございます。

- 日本経済新聞 市長からの説明について、質問をお願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞ですけど、さいたま市における業務実績も豊富であると書いてありますが、さいたま市で実際にどういうことやってきたのですか。
- 市 長 さいたま市の中で、これまで2003年に「さいたま咲いた」アンケートの調査に携わっていただきまして、報告書も作成をしていただきました。また、2008年には、広報アイテム調査をしていただき、報告書も作成いただいております。それから、市の広報に関するマスコミヒアリング、さいたま市イメージ戦略の原案を作成をしていただいております。また、2009年には情報発信ガイドラインの原案を作成し、さいたま市民意識調査報告書作成、さいたま市都市イメージグループインタビューの報告書などを作成をしていただいております。
さいたま市との関連では、そのぐらいですね。
- 埼玉新聞 結構長いつき合いをされている。
- 市 長 そうですね。一番最初が2003年ということで、その後は2008年、9年ということでもありますけども、何度か一緒に仕事をした方もいらっしゃいましたので、そのときの様子なんかが今回の採用の一つのきっかけにはなったと思います。
- 毎日新聞 これまでも、おつき合いは広報関係であるということでもいいんですね。
- 市 長 そうですね。
- 毎日新聞 これまでの広報が成果を出してきたということですか。
- 市 長 いや、今までの広報が成果を上げてきたというよりは、さいたま市の多少事情がわかっているということと、仕事ぶりについて、委託する場合、私は委託する側がどういう業務をやってもらうか、発注する側の能力の影響が非常に大きいと思っているんです。当然委託される側は、決められた業務の範囲の中で仕事をされるわけですから、その与えられた業務の中では、それなりにしっかりやっていただいたという認識は持っておりますけども、今後はその中に入っていただくことで、この間、さいたま市の広報に携わってきた部分以外もこういう思いがある、こういうふうにもっとしたほうがいいんじゃないかというようなプレゼンをしていただいたわけですけども、それが私としては非常によかったと思っておりますので、それ

で選んだということなんですね。これまでのさいたま市の広報を評価していれば、任期付の職員はもちろん採用しないわけですが、もう少し専門的な知識だとか、いろんなノウハウを持っている方に。やっぱり職員の場合ですと、どうしても決められた期間の中だけでやられてきていますし、やはり専門性という意味では十分でない部分でもありますので、これまでも専門的な、部分的な知識を、活用しながら市もやってきたわけですが、もう少し総合的な能力を発揮していただいたほうがより効果が高いだろうということで考えました。

- 毎日新聞 面接のときは、何か、どういうことを主に訴えられているんですか。
- 市長 さいたま市のこの広報について、どうやるべきかということですね、10分が15分ぐらいだったですかね。全体としては30分ぐらいでしたが、プレゼンをしてもらいました。それで、中身を聞いて、ある程度問題意識を私たちと共有しているかどうかという部分が、1つ課題としてあったんですけども、私なりに感じている部分とある意味では問題意識も共有している部分もあるなと思いました。
- 毎日新聞 それは、どういう部分になりますか。
- 市長 要するに今までは受け身の広報だったということです、簡単に言えば。
- 毎日新聞 受け身の広報。
- 市長 はい。
- 毎日新聞 受け身の広報って、どういう意味ですか。
- 市長 要するに、何か発表すべきことがあると、リリースをつくって、それで皆さんのところに広報として流すという、簡単に言えばそういった部分だけだったと思うんですけども、それをもう少し総合的に私としてはやりたいと思っているんですね。もちろん、流し方もあるでしょうし、あと私たちが一方的にその記者クラブに流すという情報だけではなくて、いろんな形で広報ってあると思うんですよ。もちろん、市報もあるし、あるいは私たちが東京事務所持っていますけれども、例えば東京を経由して流したほうがいい情報も中にはあると思っております。それは、いわゆる行政ネタとしてではなくて、違うものとして扱っていただいたほうがいい分野の情報だとか、切り口を変えることによって、今まで載らなかったところにさいたま市の情報として載せていただける可能性がある情報が私はたくさんあ

ると思っているんです。それをどういうふうに切るか、そしてそれをどう
いうふうに流していくか、それをもう少し、受け身じゃなくて、前向きに
やっていくことが必要だと思ってまして、そういった意味での思いは非
常に共通している部分がありましたので、それで、ということですね。

- 事務局 済みません。補足報告をよろしいですか。広報をしていただいていると
いうことだったんですけど、実はイメージアップだとか、シティセールス
というところを企画調整課でやってまして、そこの仕事で入っていらっ
しゃいました。来年度から広報のほうにシティセールスが移ってきます。
なかなか企画と広報のほうで一体になっていなかったというか、攻めの広
報というのが、シティセールスが企画にあるためにできなかったというこ
とがありますので、それを今度は広報課のほうにこのシティセールスを持
ってきてまして、長谷川さんの実力を生かしてもらおうということございま
す。よろしくをお願いします。

- 毎日新聞 私は取材していてすごい思うんですけど、例えば市長の今回マニフェス
トの中、いろんな項目あるじゃないですか。おもしろいなと思って担当課
に「これって珍しいんですか」と聞くと、「さあ」と言うんですね。
ちょっと調べてくださいよ。「えっ」と言われるんですよ。何かさんざん調
べて、政令市で初ですって言うから、そうですか。政令市で初だったらす
ごいじゃないですか。政令市で初だと、原稿も本紙とか載るんですよ、県
版じゃなくて。それだったら、もっとアピールすればいいのにとあって、
そうかそうかって書いていて、ふと見ると、あれ、横浜市やっている気が
するなと思って、調べて横浜市電話したら、「あっ、うちずっと前からやっ
ていますよ」と言われて、政令市初じゃなかったですけどって言ったら、
「えっ、そうですか」という、そういうところから改善したほうがいい。
それ何か多分今市長がお話しになったのって、すごい上のレベルの、もう
発信して、全国発信みたいな話だと思うんですけど、何か基本的なそうい
う、自分たちの位置がどこにあるのかみたいなのを確認する部分の広報と
いうんですかね、その部分が。もしそれで政令市初だったらすごいアピ
ールじゃないですか。そういうところが全然まだできていないのに、何かち
ょっと全国発信的な話ってどうなんだろうと思うんですけど。

- 市 長 その辺も含めて意識改革をしていきたいと思えます。その辺、職員の皆

さんは、広報、情報発信をしていくということにまだなれていないという
か、受け身というか、どっちかというプラスの情報を前向きに発信する
というよりも、マイナスの情報をいかに、それに対応していくかという発
想でこれまで多分やってきた部分が多いんじゃないかと思うんですね。で
すから、そういう意味で、自分のところの例えば部署がどんなにいいこと
やっているのかということをごすね、アピールしたり、発信をしていく力
が、あるいはそういうふうにしようと思うことがまだ十分できていないん
ですよ。ですから、それらも含めて、当然1人が、民間人のその任期付
の方が入ってきたからといってすべてが解決するわけではないので、その
意識はやっぱり全庁的に、特にそういった各部局で広報的な役割を果たす
人たちがそういう意識を持たないと。私も市長になって教育委員会だとか
の話でよく、こういうことやっているのかねと言うと、いや、さいたま市
はもう何年も前からやっていますよとあって、いろいろいいことやってい
るのがいっぱいあるんですけど、全然発信されていないんですよ。だか
ら、あっ、こんなこともやっていたの、こんなこともやっていたのって、
実を言うとたくさんあるんだけど、ぴしっと発信されていなくて、逆に言
うと、後からやっているほうが目立っちゃっているみたいな部分も随分た
くさんあるので、もう少し自分たちがやっていることが、それなりのもの
であればしっかり発信をしていくべきだし、そういう広報マインドをもっ
てもらえるようにしなくちゃいけないと思っているので、それらも含めて
やっていきたいなと思うんです。

- 朝日新聞 そういう職員の意識の方は、なかなか長年やってきたものなんで抜けな
いと思うんですけども、だからそういう教育って言ったら失礼かもしれ
ないんですけども、そういうところから、何らかの方法でやってもらうと。
- 市 長 そうですね。研修的な部分も含めてね、やっていけなくちゃいけないと
思っています、実際にはね。
- 毎日新聞 土チャレですら、最初その保護者の説明会があって、学校に行ったんで
すよ。今度本番やるんで、じゃ本番も取材来ますねって言ったら、校長先
生が、いや、今日ちょっと教育委員会から通達が来て、記者の方に取材さ
せないようにって言われたんですとあって言い出したんですよ。いや、で
も、多分うちは大丈夫だと思うんで、もう一回確認とってみますって言っ

て、確認とってもらったらオーケーだったんですけど。

- 市長 だって、あれリリース流したでしょう、きのうね。
- 毎日新聞 いや、最初の段階ではそういう話に来ていたみたいです。何か第1回目は公表しないでほしいみたいなのを。多分うまくいくかどうかわかんないからという不安があったんだと思うんですけど、それってどうなのっていう。
- 市長 そうなんです。おっしゃるとおりで、変えなきゃいけないところが多々ございますので、もう少し、だから前向きにというか、積極的にね、今私のほうで言っているのは、とにかく悪い情報も含めてもう積極的に出せと、悪いことも隠しておくとか大変なことになりますから、とにかく悪いことも出すと、いいことはもっと積極的に出すと、こういう方針でやっていきたいと思っているんですけど、まだなれていないという一言にしてしまうとちょっとそれは問題があるんですけど、そういった意識改革も含めてやっていきたいなと思っています。
- 埼玉新聞 長谷川さんの職務はこういう職務になるんですけど、それとは別に、例えば危機管理に関することなんか助言なんか、指導は期待しているのですか。
- 市長 そうですね、はい。そういう意味では、こういう記者会見の仕方なんかもやったほうがいいたろうな、私も含めて。トレーニングというんですかね、何かやっぱりきちとした、特に私がしなくても現場の担当部局で記者発表等、記者レクをさせていただくことも結構ありますので、やはりそのときの印象とかね、発表の仕方というのも、これすごく重要な部分がたくさんあるんで、そういったこともやっていただこうと思っています。
- 埼玉新聞 この間のさいたま市の救急車の話とかあったじゃないですか。あれはよかったですけど、やっぱり広報で何が一番重要かという、一番危機管理、何か問題が起きたときにどうやっていくかということがあって、この間、救急車のときはよかったと思いますけど、振り返ってみると、相川市長が倒れたときの大混乱ぶりなんか非常に悪い例って言えば悪いし、ただ、そこから学ぶべき点は非常に多いと思うので、こういうところというのは、やっぱり民間の方でないと率直に言えないところもあるのかなと思いますけど。

- 市 長 そうですね。
- 日本経済新聞 ほかにご質問ありますか。どうもありがとうございました。
以上をもちまして、本日の懇談を終了させていただきます。